2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ 部		
		対象学年	3 年	学期	前期
科目名	一般臨床医学Ⅲ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	舘正之	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復師に必要な内科的知識を身に付ける。				
到達目標	国家試験合格に必要な知識を習得する。				
成績評価	定期試験および授業態度で評価。				
使用教材	一般臨床医学:公益社団法人全国柔道整復学校協会(南江堂)				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	ガイダンス、講義予定説明。内分泌疾患① 総論、下垂体疾患、甲状腺疾患
第2回	内分泌疾患② 副甲状腺疾患、副腎皮質疾患
第3回	まとめ 小テスト
第4回	血液・造血器疾患① 総論、赤血球疾患
第5回	血液・造血器疾患② 白血球疾患、リンパ系疾患、血漿蛋白異常症
第6回	まとめ 小テスト
第7回	腎・尿路疾患① 総論、腎不全、CKD、血液浄化療法 腎移植
第8回	腎・尿路疾患② 糸球体疾患、尿路感染症、泌尿器疾患
第9回	まとめ、小テスト
第10回	神経疾患① 総論、脳血管障害、腫瘍性疾患~筋疾患
第11回	神経疾患② パーキンソン病~筋疾患
第 12 回	まとめ、小テスト
第13回	リウマチ性疾患 総論、関節リウマチ~シェーグレン症候群
第 14 回	感染症 総論、AIDS、帯状疱疹
第 15 回	まとめ、テスト

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	外科学概論 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術について、国家試験合格に必要な知識を身につける。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『外科学概論』公益社団法人全国柔道整復学校協会(南江堂)				
留意点					

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	損傷① 種類 交通外傷
第3回	損傷② 特殊損傷 熱傷
第4回	炎症・外科感染症① 炎症発症のメカニズム
第5回	炎症・外科感染症② 外科感染症
第6回	腫瘍① 良性腫瘍
第7回	腫瘍② 悪性腫瘍
第8回	ショック
第9回	輸血・輸液
第 10 回	消毒・滅菌
第11回	手術・麻酔① 手術の分類、皮膚切開
第 12 回	手術・麻酔② 全身麻酔、局所麻酔、神経ブロック
第 13 回	移植と免疫
第 14 回	出血と止血
第 15 回	心肺蘇生法

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
	2024 午及《授業計画》		3年	学 期	後期
科目名	外科学概論Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	緒方 華	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	外科学、観血的治療の基礎知識を習得する。 将来、柔道整復の施術に応用可能な技術の理論的背景を理解する。				
到達目標	疾患や手術について、国家試験合格に必要な知識を身につける。				
成績評価	定期試験、小テスト				
使用教材	『外科学概論』公益社団法人全国柔道整復学校協会(南江堂)				
留意点					

Γ

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	脳神経外科疾患① 意識障害、てんかん、運動障害
第3回	脳神経外科疾患② 中枢性脳疾患
第4回	脳神経外科疾患③ 主な脳・神経疾患
第5回	甲状腺・頚部疾患
第6回	胸壁・呼吸器疾患① 喀痰検査、開胸術、胸腔ドレナージ
第7回	胸壁・呼吸器疾患② 肺疾患、胸膜疾患、胸部損傷
第8回	心臓・脈管疾患① 検査法、到達法
第9回	心臓・脈管疾患② 先天性心疾患、心筋症
第 10 回	心臓・脈管疾患③ 虚血性心疾患、動脈・静脈疾患
第11回	乳腺疾患
第 12 回	腹部外科疾患① 腹痛、下痢、便秘、出血、黄疸
第13回	腹部外科疾患② 食道・胃・腸疾患
第14回	腹部外科疾患③ 肝・胆・膵疾患
第15回	腹部外科疾患④ 虫垂炎、ヘルニア、肛門疾患

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	平		
		対象学年	3年	学期	後期		
科目名	一般臨床医学IV	科目の別	講義	単位数	2		
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	3 0		
学修内容	柔道整復師として自分の力量と限界をわきまえながら、救急現場や他の場面で適切に病態 把握をして対処する方法を確認する。損傷に類似した症状を示す疾患の病態把握と治療 法・対処法などを学習する。						
到達目標	既に学んでいる知識を整理し定着させ応用できる能力を向上させることを目標にする。						
成績評価	小テストおよび授業態度などを総合して評価	面する。					
使用教材	関連する教科書および他の資料など。						
留意点	90分の授業で学生の集中力を維持するためまた、国家試験が近づいているため内容によ可能な範囲で解説していく。				ながら		

回 数	授業計画
第1回	1 柔道整復術の適否を考える
第2回	2 損傷に類似した症状を示す疾患(1)
第3回	3 損傷に類似した症状を示す疾患(2)
第4回	4 損傷に類似した症状を示す疾患(3)
第5回	5 血流障害を伴う損傷
第6回	6 末梢神経損傷を伴う損傷
第7回	7 脱臼骨折
第8回	8 外出血を伴う損傷
第9回	9 病的骨折および脱臼
第 10 回	10 意識障害を伴う損傷
第 11 回	11 脊髄症状のある損傷
第 12 回	12 呼吸運動障害を伴う損傷
第 13 回	13 内臓損傷の合併が疑われる損傷
第 14 回	14 高エネルギー外傷
第 15 回	15 まとめ

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 平反 12 未可 四		3年	学 期	前期
科目名	衛生学・公衆衛生学 I	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	3 0
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次 予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得す ることを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした見方で整理し、人の健康と環境との関係を評価するための科学的理論である疫学的方法論や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすことができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に 関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学:公益法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職 (医療系、栄養系、環境系)は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通 分野である。				

回 数	授業計画
第1回	衛生学・公衆衛生学の歴史
第2回	健康の概念
第3回	健康指標
第4回	疾病予防・健康管理
第5回	感染症
第6回	感染症予防対策
第7回	消毒法の分類と実践
第8回	第1回~第7回まとめ(第一回小テストおよび解説)
第9回	環境保健1
第10回	環境保健2
第11回	生活環境
第 12 回	食品衛生1
第13回	食品衛生 2・廃棄物
第 14 回	母子保健
第 15 回	第9回~第14回まとめ(第二回小テストおよび解説)

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	皿袋 良直	実務経験	無	時間数	3 0
学修内容	疾病の発症に関わる様々な社会・環境要因についての理解を深め、疾病の一次予防、二次 予防、三次予防に必要な諸条件の整備について考察・実践するために必要な知識を習得す ることを目標にする。				
到達目標	社会・環境要因は人の一生を軸にした見方と、人の生活、労働などの活動の場を軸にした 見方で整理し、人の健康と環境との関係を評価するための科学的理論である疫学的方法論 や様々な行政資料の意義とその利用法について学び、データから新たな知見を見いだすこ とができる独創力を養う。				
成績評価	定期試験 50% 小テスト 2回 50% 参加度 授業に取り組む学習態度として遅刻・欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に 関しては減点対象とする。				
使用教材	衛生学・公衆衛生学:公益法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂 国家試験過去問題集				
留意点	衛生学・公衆衛生学は学際的な基礎科目であり、人の健康増進に寄与するすべての専門職 (医療系、栄養系、環境系)は資格の種類にかかわらず学んでおくことが要求される共通 分野である。				

回数	授業計画
第1回	学校保健
第2回	産業保健1
第3回	産業保健2
第4回	成人保健1
第5回	成人保健 2・高齢者保健
第6回	精神保健
第7回	第1回~第6回まとめ(第一回小テストおよび解説)
第8回	地域保健 1
第9回	地域保健 2・国際保健
第 10 回	衛生行政
第 11 回	保健医療制度
第 12 回	疫学1
第 13 回	疫学2
第 14 回	第8回~第13回まとめ(第二回小テストおよび解説)
第 15 回	医の倫理と安全確保、まとめ、練習問題

0004年度 松光乳点		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 年度 授業計画		3年	学期	前期
科目名	関係法規	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	遠山 治孝	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師として必要な保険医療制度と関係法規について学ぶ。				
到達目標	柔道整復師に関連する法律の知識の習得。				
成績評価	定期試験 100% 参加度 欠席および授業の進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象とする。 再試験の評価については、その試験のみで評価する。				
使用教材	関係法規:社団法人全国柔道整復学校協会	医歯薬出版株	式会社		
留意点	関係法規は柔道整復師の身分を定める法律を	含め学ぶため	皆勤が望る	ましい。	

回数	授業計画
第1回	法の意義、体系
第2回	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント
第3回	柔道整復師法:目的、定義
第4回	柔道整復師法:免許、国家試験
第5回	柔道整復師法:業務
第6回	柔道整復師法:施術所
第7回	柔道整復師法:雑則、罰則
第8回	医療関係法規
第9回	医療関係法規
第 10 回	医療法
第11回	医療法
第12回	社会福祉関係法規
第13回	社会保険関係法規
第 14 回	総復習 1
第 15 回	総復習 2
第 16 回	予備日

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	[科 Ⅱ ii	FIS	
	2024 中皮 「及未計画		3年生	学 期	通年	
科目名	柔道Ⅲ	科目の別	実 技	単位数	1	
担当教員	丹羽十堂 今尾省司	実務経験	有	時間数	45	
学修内容	礼法、受身、約束乱取の習得、投の形(手技、腰技、足技)の習得、試験形式					
到達目標	認定実技審査合格レベルに到達する					
成績評価	 認定実技模擬審査(50%) 3回の小テスト(各 10% 計 30%) 出席及び授業態度(20%) ※3年間で筆記のみ合格し、実技試験に合格していない者は単位取得を認めない。 					
使用教材	柔道(全国高等学校体育連盟柔道部編纂) 講道館柔道 DVD シリーズ第 3 作「投の形」(財団法人講道館)					
留意点	見学者は授業中にレポートを書いて提出する	ることによりと	出席とする	こともある	3	

回 数	授業計画	回数	授業計画
第1回	礼法の確認、受身、寝技、立技	第 16 回	受身、約束乱取、投の形(足技)
第2回	受身、寝技、立技、投の形(浮落)	第 17 回	受身、投の形(足技)、小テスト③
第3回	受身、寝技、立技、投の形(背負投)	第 18 回	認定実技の流れ、練習
第4回	受身、寝技、立技、投の形(肩車)	第 19 回	認定実技の練習
第5回	受身、寝技、立技、投の形(手技)	第 20 回	認定実技模擬試験の反省、練習
第6回	受身、投の形(手技)、小テスト①	第 21 回	認定実技の練習
第7回	受身、寝技、立技、投の形(浮腰)	第 22 回	認定実技の練習
第8回	受身、寝技、立技、投の形(払腰)	第 23 回	認定実技最終確認、練習
第9回	受身、寝技、立技、投の形(釣込腰)		
第 10 回	受身、寝技、立技、投の形(腰技)		
第11回	受身、投の形(腰技)、小テスト②		
第 12 回	受身、寝技、立技、投の形(送足払)		
第 13 回	受身、寝技、立技、投の形(支釣込足)		
第 14 回	受身、約束乱取、投の形(内股)		
第 15 回	受身、約束乱取、投の形(足技)		

2024年度 極業計画		科の種別	柔道整復	科Ⅱ部	
	2024 年度 授業計画		3年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 演習ⅡA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨床 内臓系について、柔道整復師国家試験に必要			-	
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学(社団法人全国柔道整復学校協会 監 柔道整復師国家試験の過去問題	だ修・医歯薬出	版)		
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習するこ	- Ł.			

回数	授業計画
第1回	オリエンテーション
第2回	解剖学概説
第3回	運動器系(骨格系)
第4回	運動器系(筋系)
第5回	末梢神経系(脊髄神経)
第6回	循環器系 (心臓)
第7回	循環器系(動脈系・静脈系、リンパ系、胎児循環)
第8回	消化器系(消化管)
第9回	消化器系(肝臓・胆嚢・膵臓)
第 10 回	呼吸器系
第11回	泌尿器系
第 12 回	生殖器系
第 13 回	内分泌系
第 14 回	中枢神経系
第 15 回	末梢神経系(脳神経)

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復学 演習ⅡB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	柔道整復に必要な解剖学的知識を修得する。				
到達目標	運動器系・神経系・循環器系について、臨尿 柔道整復師国家試験に必要な知識を修得する		できるこ	<u>-</u> .	
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	解剖学(社団法人全国柔道整復学校協会 柔道整復師国家試験の過去問題	だ修・医歯薬出	版)		
留意点	学習内容が多いため、講義ごとに復習するこ	- Ł.			

回 数	授業計画
第1回	感覚器系
第2回	体表解剖
第3回	運動器系の問題演習
第4回	循環器系の問題演習
第5回	消化器系の問題演習
第6回	呼吸器系の問題演習
第7回	泌尿器系の問題演習
第8回	生殖器系の問題演習
第9回	内分泌系の問題演習
第 10 回	中枢神経系の問題演習
第11回	末梢神経系の問題演習
第 12 回	感覚器系の問題演習
第13回	解剖学全般の問題演習①
第 14 回	解剖学全般の問題演習②
第 15 回	解剖学全般の問題演習③

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	4044 十尺 1久未司 四		3年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 各論VA	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することが出来る。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学(理論編) : 社団法人全国柔道望柔道整復学(実技編) : 社団法人全国柔道望				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国家試験での得点力を獲得するための授業であるため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。				

回数	授業計画
第1回	鎖骨骨折
第2回	肩鎖関節脱臼・肩甲骨骨折
第3回	上腕骨外科頸骨折
第4回	肩関節脱臼
第5回	肩部軟部組織損傷
第6回	第1回中間テスト
第7回	上腕骨骨幹部骨折・上腕骨顆上骨折
第8回	上腕骨外顆骨折・上腕骨内側上顆骨折
第9回	肘関節脱臼・肘内障
第 10 回	肘部軟部組織損傷
第11回	第2回中間テスト
第 12 回	前腕骨骨幹部骨折
第 13 回	前腕軟部組織損傷
第 14 回	橈骨遠位端部骨折
第 15 回	手根骨骨折、総復習

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 平及 「汉未司 四		3年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 各論VB	科目の別	講義	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	柔道整復師に必要な総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の知識を習得する。				
到達目標	各分野の損傷の特徴を捉え、説明することができる。 総論・体幹・下肢の骨折・脱臼・軟部損傷部の内容を説明することが出来る。				
成績評価	中間試験【50%】 定期試験【50%】				
使用教材	柔道整復学(理論編) : 社団法人全国柔道 柔道整復学(実技編) : 社団法人全国柔道				
留意点	1. 2年次で学修した内容の復習を行い、国		(力を獲得る	するための:	授業である

ため、積極的に質問・発言をすることが望ましい。

回数	授業計画
第1回	骨盤部骨折
第2回	股関節脱臼
第3回	大腿骨頸部骨折
第4回	大腿骨骨幹部骨折
第5回	股関節軟部組織損傷
第6回	大腿部軟部組織損傷
第7回	第1回中間テスト
第8回	膝部骨折
第9回	膝関節軟部組織損傷
第 10 回	膝関節軟部組織損傷
第11回	下腿骨骨幹部骨折
第 12 回	下腿軟部組織損傷
第 13 回	第2回中間テスト
第 14 回	足部骨折
第 15 回	足部脱臼、総復習

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科Ⅱ部	
		対象学年	3 年生	学 期	後期
科目名	各論VI	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	木全 健太郎、太田 康晴	実務経験	有	時間数	60
学修内容	柔道整復師に必要な「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」 「病理学」「一般臨床医学」「柔道整復学」の知識を修得する				
到達目標	「法規」「社会保障制度」「職業倫理」「柔道の理念」「解剖学」「生理学」「病理学」「一般臨床 医学」「柔道整復学」の国家試験問題で80%以上正解できる				
成績評価	第2回模擬試験または授業内で実施する試験で評価する。(定期試験は行わない) 合格基準:次のいずれかを満たすもの ①第2回模擬試験で必修問題8割以上かつ一般問題6割以上の得点 ②授業内で100点満点の試験を2度実施し得点合計が140点以上の得点 ※授業内で行う試験の出題割合は「必修科目×25」「解剖学×15」「生理学×15」「病理学×10」 「一般臨床×15」「柔整理論×20」とする(例:校内模試の過去問から抜粋) 評価:上記①または②の点数を100点換算し、いずれか良い点数とする。合格基準を満たさず、換算点が60点以上となるものはすべて「59点」とする。				
使用教材	教科書:柔道整復学理論編・実技編 関係法規 般臨床医学	. 社会保障制度	医 解剖学	生理学	病理学 一
留意点	学習の優先順位を意識し知識を一つ一つ積み」	上げて下さい。			

回数	授業計画	回数	授業計画
第1回	教科書、配布資料を基に学習する	第 16 回	教科書、配布資料を基に学習する
第2回	教科書、配布資料を基に学習する	第17回	教科書、配布資料を基に学習する
第3回	教科書、配布資料を基に学習する	第 18 回	教科書、配布資料を基に学習する
第4回	教科書、配布資料を基に学習する	第19回	教科書、配布資料を基に学習する
第5回	教科書、配布資料を基に学習する	第 20 回	教科書、配布資料を基に学習する
第6回	教科書、配布資料を基に学習する	第21回	教科書、配布資料を基に学習する
第7回	教科書、配布資料を基に学習する	第 22 回	教科書、配布資料を基に学習する
第8回	教科書、配布資料を基に学習する	第 23 回	教科書、配布資料を基に学習する
第9回	教科書、配布資料を基に学習する	第 24 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 10 回	第1回 授業内テスト	第 25 回	第2回 授業内テスト
第 11 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 26 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 12 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 27 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 13 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 28 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 14 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 29 回	教科書、配布資料を基に学習する
第 15 回	教科書、配布資料を基に学習する	第 30 回	教科書、配布資料を基に学習する

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
	2024 中戌 汉未司 四	対象学年	3年	学 期	前期
科目名	柔道整復学 演習ⅢA	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	(有)・無	時間数	3 0
学修内容	 柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。 				
到達目標	循環器系・呼吸器系・体温調節について臨尿 血液・消化・代謝について柔道整復師国家記				
成績評価	期末試験				
使用教材	柔道整復学・理論編(南江堂) 生理学(南江堂) 解剖学(医歯薬出版株式会社)				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確認 下さい。	要する時間を設 でする時間を設	けますの	 で積極的に	参加して

回数	授業計画
第1回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第2回	柔道整復師に必要な生理学基礎
第3回	柔道整復師に必要な血液の機能
第4回	柔道整復師に必要な血液の機能
第5回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第6回	柔道整復師に必要な循環器の機能
第7回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第8回	柔道整復師に必要な呼吸器の機能
第9回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な消化器の機能
第11回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な代謝の機能
第 13 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 14 回	柔道整復師に必要な体温とその調節
第 15 回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	柔道整復学 演習 Ⅲ B	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	太田 康晴	実務経験	有•無	時間数	3 0
学修内容	 柔道整復に必要な生理学的知識を修得する。 				
到達目標	筋骨格系・神経系・感覚系について臨床症½ 泌尿器系・内分泌系・生殖系について柔道素		_	印識を修得	すること。
成績評価	期末試験【50%】				
使用教材	柔道整復学・理論編(南江堂) 生理学(南江堂) 解剖学(医歯薬出版株式会社)				
留意点	授業時間内に正しい理解ができているか確 下さい。	認する時間を記	设けますの	で積極的に	に参加して

回数	授業計画
第1回	柔道整復師に必要な泌尿器の機能
第2回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第3回	柔道整復師に必要な内分泌の機能
第4回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第5回	柔道整復師に必要な生殖器の機能
第6回	柔道整復師に必要な骨の機能
第7回	柔道整復師に必要な骨の機能
第8回	柔道整復師に必要な体液の機能
第9回	柔道整復師に必要な体液の機能
第 10 回	柔道整復師に必要な神経の機能
第11回	柔道整復師に必要な神経の機能
第 12 回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第13回	柔道整復師に必要な筋肉の機能
第14回	柔道整復師に必要な感覚器の機能
第 15 回	柔道整復師に必要な感覚器の機能

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3 年	学 期	後期
科目名	演習IV	科目の別	演習	単位数	1
担当教員	福岡 治	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	整形外科学、運動学、リハビリテーション医る。	学の各教科を復	[習し、国]	京試験合格	の一助とす
到達目標	一般問題 60%以上の得点力を身につけさせる 教科とリンクした勉強方法を習得させる。	。また、解剖学	之、生理学、	柔道整復	学などの他
成績評価	定期試験 100% 授業進行を妨げる迷惑行為に関しては減点対象	象とする。			
使用教材	「運動学」医歯薬出版株式会社 「整形外科学」監修:南江堂				

「リハビリテーション医学」監修:南江堂

留意点

回数	授業計画
第1回	整形外科学①
第2回	整形外科学②
第3回	整形外科学③
第4回	整形外科学④
第5回	整形外科学⑤
第6回	整形外科学⑥
第7回	整形外科学⑦
第8回	整形外科学⑧
第9回	リハビリテーション医学①
第10回	リハビリテーション医学②
第11回	リハビリテーション医学③
第 12 回	運動学①
第 13 回	運動学②
第 14 回	運動学③
第 15 回	運動学④

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	臨床的判定	科目の別	講義	単位数	2
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有,無	時間数	3 0
	柔道整復術の適応の判断に必要な外傷に類似	する疾患と、外	傷の危険が	な兆候の基	礎知識を習
学修内容	得する。				
	様々な医用画像機器の基本的な原理と、画像の	の特性や判断に	おける要点	を習得する) ₀
	臨床所見から施術の適否を的確に判断することができる。				
到達目標	各画像の特徴を理解し説明することができる。				
	超音波画像装置の基本的な操作ができる。				
☆ ◆ ◆ ◆ ★ ☆ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★	定期試験 80%				
	成績評価				
	施術の適応と医用画像の理解 (:社団法人全国	国柔道整復学校	協会 監修	: 南江堂)	
使用教材					
Kπ Δ Δ. ⊢	出席を常とするよう注意する。				
留意点					

Г

回数	授業計画
第1回	授業内容、評価方法説明、柔道整復術の適否
第2回	損傷に類似した症状を示す疾患
第3回	血流障害を伴う損傷
第4回	末梢神経損傷を伴う損傷
第5回	脱臼骨折・病的骨折および脱臼
第6回	外出血を伴う損傷
第7回	意識障害を伴う損傷
第8回	脊髄損傷のある損傷
第9回	呼吸運動障害を伴う損傷
第 10 回	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷
第11回	医用画像の理解 放射線
第 12 回	X 線 CT・磁気共鳴検査
第13回	超音波画像装置
第 14 回	超音波画像装置 実技
第 15 回	超音波画像装置 実技

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 午及 父未司 四	対象学年	3年	学 期	前期
科目名	実技IVA	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	衝・ 無	時間数	3 0
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	・患者の病態に合わせた施術を選択できるよう・主に上肢に対する施術をできるようにする。	·			
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹(MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法(MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス(医道の日本)				
図音 占	常に感覚を集中させ、治療家としての感性を原	感じてもらえる	ように意識	ける。	

身体を触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。

留意点

回数	授業計画
第1回	ガイダンス
第2回	触診 (トリガーポイント①)
第3回	触診 (トリガーポイント②)
第4回	触診 (ジョイントモビライゼーション①)
第5回	触診 (ジョイントモビライゼーション②)
第6回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する運動療法
第7回	胸鎖関節・肩鎖関節に対する手技療法
第8回	胸鎖関節・肩鎖関節に対するテーピング療法
第9回	肩甲胸郭関節に対する運動療法
第 10 回	肩甲胸郭関節に対する手技療法
第11回	肩甲胸郭関節に対するテーピング療法
第 12 回	肩甲上腕関節に対する運動療法
第 13 回	肩甲上腕関節に対する手技療法
第 14 回	肩甲上腕関節に対するテーピング療法
第 15 回	定期テスト

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	実技IVB	科目の別	実 習	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	衝·無	時間数	3 0
学修内容	臨床現場で使用する施術方法を習得する。				
到達目標	・患者の病態に合わせた施術を選択できるようにする。・主に上肢に対する施術をできるようにする。				
成績評価	定期試験 100%				
使用教材	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング(文光堂) 改訂第2版整形外科運動療法ナビゲーション上肢・体幹(MEDICAL VIEW) 結果の出せる整形外科理学療法(MEDICAL VIEW) オステオパシーアトラス(医道の日本)				

常に感覚を集中させ、治療家としての感性を感じてもらえるように意識する。

身体を触れる機会が多くなるため、事故防止に留意する。

留意点

回数	授業計画
第1回	肩甲上腕関節に対するアプローチ(野球肩を中心に)
第2回	肘関節に対する運動療法
第3回	肘関節に対する手技療法
第4回	肘関節に対するテーピング療法
第5回	前腕部に対するテーピング療法
第6回	近位・遠位橈尺関節に対する運動療法
第7回	橈骨手根関節に対する運動療法
第8回	橈骨手根関節に対する手技療法
第9回	橈骨手根関節に対するテーピング療法
第 10 回	ロールプレイング①
第11回	ロールプレイング②
第 12 回	ロールプレイング③
第 13 回	ロールプレイング④
第 14 回	総復習
第 15 回	定期テスト

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学期	前期
科目名	柔道整復実技VA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	下肢の症例に対し臨床所見のとり方、施術方針や具体的な施術方法の考え方について修得する。施術方針に基づき各疾患の施術実技を行う。				
到達目標	臨床上よく遭遇する下肢の疾患を評価し施術の効果判定ができること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編(社団法人全国柔道整復 柔道整復学・実技編(社団法人全国柔道整復		修・南江堂		
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を	と心がけること	0		

回数	授業計画
第1回	足部の機能解剖
第2回	足関節部の徒手検査法
第3回	足関節部のエコー観察(前距腓靭帯、前脛腓靭帯、二分靭帯など)
第4回	足関節捻挫の固定法(麦穂帯)
第5回	足関節捻挫の固定法 (テーピング・ホワイトテープ)
第6回	足関節の機能的固定 (テーピング・伸縮性テープ)
第7回	足関節のキャスト固定(シュガートング型)
第8回	外反母趾・扁平足の徒手療法と機能的テーピング
第9回	膝部の機能解剖
第 10 回	膝関節部の徒手検査法
第11回	膝関節部のエコー観察(骨・軟骨)
第 12 回	膝関節部のエコー観察(前方アプローチ:膝伸展機構、膝蓋下脂肪体)
第13回	膝関節部のエコー観察(内側・外側アプローチ:側副靭帯・半月板、腸脛靭帯)
第 14 回	膝関節の可動域訓練と大腿四頭筋訓練
第 15 回	期末試験

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学期	後期
科目名	柔道整復実技VB	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	体幹部の症例に対し臨床所見のとり方、施術方針や具体的な施術方法の考え方について修 得する。施術方針に基づき各疾患の施術実技を行う。				
到達目標	臨床上よく遭遇する体幹部の疾患を評価し施術の効果判定ができること。				
成績評価	期末試験 100%				
使用教材	柔道整復学・理論編(社団法人全国柔道整復 柔道整復学・実技編(社団法人全国柔道整復		修・南江宣修・南江宣		
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を	と心がけること	0		

回数	授業計画
第1回	頸部の機能解剖
第2回	頸部の徒手検査法(頸椎椎間板ヘルニア、胸郭出口症候群など)
第3回	頸部のエコー観察 (斜角筋隙・僧帽筋、胸鎖乳突筋など)
第4回	頸部のテーピング固定
第5回	胸椎の機能解剖
第6回	胸椎の徒手療法
第7回	背部の筋力強化
第8回	腰椎・骨盤帯の機能解剖
第9回	腰部の徒手検査法(腰椎椎間板ヘルニア、椎間板・椎間関節症など)
第 10 回	腰部のエコー観察(棘突起列、多裂筋、脊柱起立筋、腰方形筋など)
第11回	骨盤帯の機能解剖
第 12 回	骨盤帯の徒手検査法 (仙腸関節)
第 13 回	柔道整復師の手技療法(軽擦・強擦・揉捏・叩打・振戦・圧迫・伸張)
第 14 回	神経筋促通(PNF)
第 15 回	期末試験

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 中皮 「文表司 四	対象学年	3年	学 期	前期
科目名	総合実技IA	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験(特に必修問題)の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60%(30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編(社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 柔道整復学・実技編(社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回 数	授業計画
第1回	オリエンテーション (認定実技審査および国家試験の概要)
第2回	鎖骨定型的骨折
第3回	上腕骨外科頸骨折
第4回	コーレス骨折
第5回	第 1 回中間試験 (30%)
第6回	肩鎖関節上方脱臼
第7回	肩関節前方烏口下脱臼
第8回	肘関節後方脱臼
第9回	肘内障
第 10 回	第 2 回中間試験 (30%)
第11回	肩腱板損傷・上腕二頭筋長頭腱損傷
第 12 回	ハムストリングス損傷・大腿四頭筋打撲
第 13 回	膝関節(側副靭帯・十字靭帯・半月板)損傷
第 14 回	下腿三頭筋損傷・足関節外側靭帯損傷
第 15 回	期末試験 (40%)

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
	2024 年及《父亲計画》	対象学年	3年	学 期	後期
科目名	総合実技 I B	科目の別	実習	単位数	1
担当教員	木全 健太郎	実務経験	有	時間数	30
学修内容	認定実技審査の出題項目に対応した施術実技を行う。 国家試験(特に必修問題)の対策を行う。				
到達目標	認定実技審査および国家試験における合格基準を達成する。				
成績評価	中間試験 60%(30%×2 回) 期末試験 40%				
使用教材	柔道整復学・理論編(社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 柔道整復学・実技編(社団法人全国柔道整復学校協会 監修・南江堂) 認定実技審査要領および中和式マニュアル				
留意点	出席を常とし、理論に基づいた実技の修得を心がけること。				

回数	授業計画
第1回	骨折の復習
第2回	脱臼の復習
第3回	第1回中間試験 (30%)
第4回	軟部組織損傷の復習
第5回	軟部組織損傷の復習
第6回	第 2 回中間試験 (30%)
第7回	総復習
第8回	総復習
第9回	総復習
第 10 回	国家試験必修問題対策
第11回	国家試験必修問題対策
第 12 回	国家試験必修問題対策
第13回	国家試験一般問題対策
第14回	国家試験一般問題対策
第 15 回	期末試験 (40%)

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復	科 Ⅱ部	
		対象学年	3年	学 期	前期
科目名	総合実技Ⅱ A	科目の別	学 科	単位数	1 単位
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0 時間
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	授業内に行う確認試験にて評価を行う (前期:3回)				
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学(理論編・実技編):社団法人会 包帯固定法:社団法人全国柔道整復学校協会			監修:南江	堂
留意点					

回 数	授業計画
第1回	内容説明 絆創膏固定① 鎖骨骨折
第2回	絆創膏固定② 肩鎖関節脱臼
第3回	シーネ固定① ミッテルドルフ
第4回	シーネ固定② コーレス骨折、肘関節脱臼
第5回	シーネ固定③ アキレス腱、下腿骨幹部
第6回	第1~5回の確認
第7回	アルミ副子固定① ボクサー骨折
第8回	アルミ副子固定② 第2PIP 関節脱臼
第9回	厚紙副子固定① 肋骨骨折、肩関節脱臼
第 10 回	厚紙副子固定② 足関節捻挫
第11回	第7~10回の確認
第 12 回	テーピング固定① 膝関節、足関節
第 13 回	テーピング固定② 足関節
第 14 回	テーピング固定③
第 15 回	第 12~14 回の確認

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	総合実技ⅡB	科目の別	学 科	単位数	1
担当教員	愛知 秀一	実務経験	有	時間数	3 0
学修内容	認定実技試験に対応できる、知識と技術を獲得する。 実務に向けた総合学習を行う。				
到達目標	固定法を行うことができる。 各骨折、脱臼について説明することができる。				
成績評価	認定実技模試と認定実技審査の結果を元に	評価を行う			
使用教材	授業内で配布する資料 柔道整復学(理論編・実技編):社団法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂 包帯固定法:社団法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂				
留意点					

回 数	授業計画
第1回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第2回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第3回	シーネ・アルミ副子・厚紙副子固定練習
第4回	絆創膏・ テーピング固定練習
第5回	絆創膏・テーピング固定練習
第6回	絆創膏・テーピング固定練習
第7回	認定実技模試前総合復習
第8回	模試反省改善点の確認
第9回	認定実技直前総合復習
第 10 回	認定実技後振り返り
第11回	国家試験対策
第 12 回	国家試験対策
第 13 回	国家試験対策
第 14 回	国家試験対策
第 15 回	国家試験対策

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 Ⅱ部		
		対象学年	3年	学 期	後期
科目名	外傷予防	科目の別	実 技	単位数	1
担当教員	爲房 佑輔	実務経験	有,無	時間数	3 0
学修内容	競技者・高齢者に発生する外傷の特徴と、その予防について学習する。				
到達目標	競技者と高齢者に発生する外傷の特徴を理解し、説明することができる。 外傷を予防するための方法を適切に指導することができる。				
成績評価	定期試験 50% 中間試験 50%				
使用教材	競技者の外傷予防:社団法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂 柔道整復師と機能訓練指導:社団法人全国柔道整復学校協会 監修:南江堂				
留意点	柔整理論の各論で学習した内容が含まれるため、復習して授業に臨むこと。 30 時間の内訳は、「競技者の外傷予防 15 時間」、「高齢者の外傷予防 15 時間」で実施する。				

回 数	授業計画		
第1回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要		
第2回	競技者の外傷予防 運動生理学の概要		
第3回	競技者の外傷予防 概論・外傷の発生原因 外傷の予防対策		
第4回	競技者の外傷予防 メディカルチェック 評価と判定		
第5回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法		
第6回	競技者の外傷予防 コンディショニング方法 種目別の外傷予防		
第7回	競技者の外傷予防 種目別の外傷予防		
第8回	競技者の外傷予防 成長期の外傷予防、高齢者の外傷予防 高齢者の特徴		
第9回	高齢者の外傷予防 受傷メカニズム		
第 10 回	高齢者の外傷予防 ロコモティブシンドローム / サルコペニア / フレイル		
第11回	高齢者の外傷予防・転倒予防		
第 12 回	高齢者の外傷予防 機能訓練		
第 13 回	高齢者の外傷予防 運動と要点		
第 14 回	高齢者の外傷予防 運動と要点		
第 15 回	高齢者の外傷予防 運動と要点		

2024 年度 授業計画		科の種別	柔道整復科 I 部		
		対象学年	2~3年	学 期	通年
科目名	臨床実習	科目の別	実 習	単位数	4
担当教員	戸﨑素成	実務経験	有	時間数	180
学修内容	学校で学んだ事を、臨床現場で活用できるようにする。 患者さんとのコミュニケーションをできるようにする。 接骨院実習で遭遇した症例を振り返り、実習時の対応について妥当性を検討できる。				
到達目標	接骨院業務の流れを覚える。 評価と施術ができる。 レポートおよび発表を通じて第三者に客観的データとともに議論できること。				
成績評価	校内臨床実習と校外臨床実習を勘案して評価する。 評価割合は3:1とする。				
使用教材	臨床実習の手引き				
留意点	臨床実習4単位180時間のうち、1単位45 校外臨床実習のうち、1単位45時間を2年 る。				中に実施す

授業計画 (学修内容)

基礎実習

- 1) 柔道整復師としてふさわしい服装、身だしなみや態度を身につける
- 2) 医療面接の実施
- 3) ROM、MMT などを計測、評価の実施
- 4)神経学的検査、脈管検査、評価の実施
- 5) 治療機器の効果、禁忌の理解
- 6) ベッドメイキング、衛生面への配慮

【見学実習】 環境準備、受付業務、患者さんの誘導を実施

【体験実習】 患者として施術を受け、グループディスカッションの実施

患者さんに対する対応

- 1) 患者に対して適切な対応ができる
- 2) 患者の抱える問題点に共感できる。
- 3) 自己の問題点を抽出し、解決できる。

施術録作成·症例検討

- 1) 施術録の記載
- 2) 症例検討の実施

保険請求 (受療委任の手続き)

- 1) 手続きの意義
- 2) 記載方法の実施